

1. 日本側参加研究者の体制

①採択年度 (和暦) (西暦)	平成30 2018	年度	②採択期間 (通常A型は5年以内 B型は3年以内)	5 年間 (1年未満は 切上げ)	③事業の型 (AまたはBを記入)	A	型
④日本側拠点機関名 (和文)	大阪大学						
⑤研究交流課題名 (和文)	蛋白質凝集の先端研究ネットワーク形成						
⑥課題番号	JPJSCCA20180007						
⑦コーディネーター所属部局名・ 職名・氏名 (和文)	大学院工学研究科・特任研究員・後藤祐児						
⑧日本側協力機関名 (和文) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)							
福井大学							
量子科学技術研究開発機構							
神戸大学							
近畿大学							
京都大学							
岐阜大学							
信州大学							

⑨参加研究者数内訳 (様式12 参加研究者リスト に準じてください。重複カ ウントしないこと。)	教授級 以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	参加資格の ない者 (⑩に内訳をご記入くださ い。手引き2～4参照。)	合計	第三国所属の研究者 (内数) (⑪に内訳をご記入くだ さい。)
拠点機関	5	4	2	7	0	18	0
協力機関・協力研究者	7	12	3	7	0	29	0
合計	12	16	5	14	0	47	0

⑩手引2～4記載の参加資格のない者の内訳 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

所属・職	専門分野	研究交流での役割
該当なし		

⑪「第三国所属の研究者」内訳 (5名迄。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)

所属機関所在国・ 所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット	日本側参加者として一体的な協力体制を 確保する方法
該当なし			

2. 経費

事業の型 A 型		
①当該年度の本事業による経費の支出		
経費内訳	金 額 (単位:円)	備 考
研究 交 流 経 費	国内旅費※1	21,120
	外国旅費※1	2,261,420
	謝金	0
	備品・消耗品購入費	10,307,349
	その他経費	224,161
	不課税取引・非課税取引 に係る消費税 ※2	235,950
	計	13,050,000
業務委託手数料		1,305,000 研究交流経費の10%（1円未満切捨）。 消費税額は内額とする。
合計		14,355,000

※1「国内旅費」「外国旅費」の合計が、研究交流経費支出額の50%を超えていない場合、備考欄にエラーが出ます。

※2受託機関における課税、非課税（免税）の区分に応じ対象額を算定のこと。受託機関で負担の場合はその旨、備考欄に記載すること。

②研究交流経費（総額）の30%に相当する額を超える各経費費目の増減があった場合の説明事由（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、渡航が制限され国際交流を実施できませんでした。そのため、国内での研究に重点をおいて本事業の推進を図ることが必要になりました。このため、当初予定した旅費の一部を備品・消耗品購入費に振り替えました。

③ 日本側 の 旅費	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本である者の旅費の総額（単位：千円）		2,283		
	日本側参加研究者のうち、 所属機関が日本以外である者の旅費の総額（単位：千円）		日本→日本以外の渡航	0	
			日本以外→日本の渡航	0	
			日本以外→日本以外の渡航	0	
④ （単位：千円） （千円未満切捨て）	日本又は相手国 →日本の渡航	0	（単位：千円） （千円未満切捨て） 左記のうち、 参加研究者の 旅費の総額 の相手国側	日本又は相手国 →日本の渡航	0
	日本又は相手国 →相手国の渡航	0		日本又は相手国 →相手国の渡航	0
	日本又は相手国 →第三国の渡航	0		日本又は相手国 →第三国の渡航	0
	第三国→ 日本の渡航	0		第三国→ 日本の渡航	0
	第三国→ 相手国の渡航	0		第三国→ 相手国の渡航	0
	第三国→ 第三国の渡航	0		第三国→ 第三国の渡航	0

※旅費は、往復の金額で記載すること（例：第三国から日本に渡航の場合、第三国→日本→第三国の往復の渡航費を「第三国→日本の渡航」の欄に記載）。

経由国がある場合は、日本側拠点機関の規定等に基づき、旅費の分類・切り分けを行い、記入すること。

⑤（B型で平成31年度採択課題のみ）中国・韓国・シンガポール・台湾側参加者の外国旅費がある場合

（交流経費の5%以内。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。）

総額（単位：千円）	手引2-6記載の要件を満たす旨の事由説明

⑥相手国マッチングファンド(=相手国側拠点機関が本研究課題に使用した研究交流経費)（単位：千円、千円未満切捨て）

全相手国のマッチングファンド総額 （1年間の金額）	マッチングファンドのある 相手国拠点機関数	相手国拠点機関のマッチングファンド平均額 （1年間の金額）
4,500	7	642

3. 共同研究・セミナー

事業の型 A 型								
①共同研究（適宜、行を加除すること。）			現在の年度に○を付けること→			○		
共同研究 整理番号	共同研究課題名（和文）	相手国	1年目 実施年度に ○を付ける ↓	2年目 実施年度に ○を付ける ↓	3年目 実施年度に ○を付ける ↓	A型のみ		
						4年目 実施年度に○を 付ける↓	5年目 実施年度に○を 付ける↓	
R 1	蛋白質凝集の分子機構	ハンガリー	○	○	○	○	○	
R 2	蛋白質凝集と神経変性疾患	英国	○	○	○	○	○	
R 3	アミロイド線維の原子レベルでの構造解明	ドイツ、英国、イタリア	○	○	○	○	○	
共同研究の実施状況（当該年度実施の共同研究について、共同研究整理番号毎に、特筆すべき成果、相手国側拠点機関との主体的な取り組み及び今後の研究への波及効果、研究協力体制の構築状況等について記載すること。また、手引5-3変更事例No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。） R1:エトバッシュ・ローランド大学と大阪大学を中心に共同研究を継続して実施した。エトバッシュ・ローランド大学においては、FTIRやNMRを用いたアミロイド線維の解析、大阪大学においては、超音波装置を用いたアミロイド線維の形成機構の解析を中心に行った。また、超音波に依存したアミロイド凝集促進装置HANABIの再現性及び安定性を向上した。研究期間を令和4年度まで延長した。これによりハンガリーを訪問して共同研究を実施すること計画したが、コロナ禍が続いたため中止した。また、ハンガリー拠点コーディネーターが来日してCDスペクトルの解析法BestSell に関する若手育成ワークショップを開催することを計画したが、同じくコロナ禍により中止した。 R2：ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン（UCL）と大阪大学の共同研究を継続して実施した。トランスサイレチンは家族性ポリニューロパチーや老人性全身性アミロイドーシスの原因蛋白質である。トランスサイレチンの変異体や部分ペプチドとHANABIを用いて、アミロイド線維形成機構を解析し、剛直なアミロイド線維と、フレキシブルな線維状凝集体の違いを明らかにした。コロナ禍によって研究者の相互訪問を行わなかった。 R3：アミロイド線維の原子レベルでの構造解明を目標とした共同研究を実施した。大阪大学においては、固体NMRとクライオ電顕を併用して、β2ミクログロブリンのアミロイド線維の原子レベルでの構造解析をさらに進めた。日本側参加研究者1名は、英国協力機関であるリーズ大学において、β2ミクログロブリン変異体の構造解析を進めた。さらに信州大学（国内協力機関）はドイツウルム大学（ドイツ協力機関）と、クライオ電顕を用いたマウス・AAアミロイド線維の原子構造解析を開始した。コロナ禍によって研究者の相互訪問を行わなかった。								
②セミナー（当該年度開催分について、記載。適宜、行を加除すること。）								
セミナー 整理番号	セミナー名（和文）※振興会名及び本事業名を明記すること。シンボルマーク等で代用した場合、その旨コメントにて記載すること。英文も同様。	セミナー名（英文）	開催地（国名・都市名・会場名）	開催期間（○年○月○日～○年○月○日（○日間））				
S 1	日本学術振興会研究拠点形成事業「蛋白質凝集の分子機構」	JSPS Core-to-Core Program and Technical University of Munich Joint Meeting: "Amyloid Symposium Munich 2023"	ドイツ・Munich・Technical University of Munich	2023年2月16日～2023年2月17日				
S 2	日本学術振興会研究拠点形成事業「蛋白質凝集と神経変性疾患」	JSPS Core-to-Core Seminar: "Protein Aggregation and Neurodegenerative Disease"	英国予定（中止）	2021年12月予定（中止）				
S 3	日本学術振興会研究拠点形成事業「アミロイド線維の構造解明」	JSPS Core-to-Core Seminar: "Clarifying Amyloid Structures"	ドイツ予定（中止）	2022年2月予定（中止）				
S 4	日本学術振興会研究拠点形成事業「蛋白質のフォールディングとミスフォールディング」	JSPS Core-to-Core Seminar: "Protein folding and Misfolding"	デンマーク予定（中止）	2022年2月予定（中止）				
セミナーの開催状況（当該年度開催のセミナーについて、セミナー整理番号毎に、参加者数（総数、参加国名ごとの参加人数（本事業経費による負担の有無を問わない）、交流を通じて得られた研究成果の発表・評価・とりまとめの状況、相手国とのネットワーク形成、若手の育成等の効果等について記載すること。また、手引5-3「軽微な変更の事例」の変更事項No.2にあたる変更の場合は、変更事由も記載すること。） S1：参加者数（総数40名：日本6名、ドイツ31名、英国1名、デンマーク1名：本セミナーはオンラインでも同時配信した） 本セミナーは、期間延長後計画ではR4(2022)年10月にハンガリーで実施する予定であったが、ハンガリー側の電力逼迫事情により、ハンガリーでの開催が不可となった。セミナーでは、日本からの参加者6名（若手1名）が口頭発表した。また、本拠点事業の英国、デンマーク拠点コーディネーターも参加した。 初期計画R3セミナーS1では「蛋白質凝集の分子機構」を主題とする計画であった。他方、R4セミナーS3では「アミロイド線維の構造解明」を主題とする計画であった、期間延長の間、本拠点事業内においても「蛋白質凝集の分子機構」に関する研究が進展した。そのため、R3年度事業の一環として実施した当該セミナーにこれらR4年度に進展した研究成果も含め蛋白質凝集の分子機構や、アミロイド線維の原子構造、病気における役割などの現状と展望を、生物物理学や医学、生物学、工学などのより広い視点から議論することができた。 具体的には、日本からの参加者は、R3セミナーS1の主題「蛋白質凝集の分子機構」に関連する溶解度と過飽和、アミロイド形成中間体、アミロイドと不定形凝集などに関する研究成果を発表した。ドイツ側参加者は、R4セミナーS3の主題「アミロイド線維の構造解明」に関連する分光学的分析法、NMR、分子動力学シミュレーション、クライオ電顕観察、高分解能蛍光顕微鏡観察法などを発表した。クライオ電顕研究においてはドイツと日本の共同研究成果が紹介された。 休憩時間にも多くの議論が行われ、若手研究者は、各国の研究活動の状況等について情報交換し、交流を深めた。セミナー参加者からは、国際交流における英語コミュニケーションの重要性を再認識し、「セミナーが研究交流だけではなく異文化交流の機会ともなることを肌で感じた」、「国際共同研究の意義を認識するとともに、さらに推進したい」などと述べており、特に若手研究者にとっての今後の国際研究活動の意欲を高める貴重な経験となったことが伺える。 並行してドイツ側との共同研究に関する打ち合わせを行い、研究推進にも有意義であった。 セミナー、研究交流状況の詳細は拠点ホームページに報告した（https://supersaturation.sakura.ne.jp/core2core/230216.html）。 S2-S3：これらのセミナーはコロナ禍によって中止した。								
③当該年度に第三国でのセミナー開催があった場合の、本事業の位置づけ、第三国で開催する経済的かつ合理的な理由、そして相手国側拠点との開催経費の分担状況（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引2-7参照のこと。）								
該当なし								
④該年度に開催のセミナーで、参加研究者以外の者に本事業経費を使って基調講演を依頼した場合の、日本側拠点機関にとってのメリット（セミナー整理番号毎に記入すること。該当ない場合は「該当なし」と記入すること。手引3-4（1）①参照のこと。）								
該当なし								

4. 研究交流状況

事業の型 A 型 (本シートには、延べ人数で計算した人数を記入すること。)										
①日本→海外の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除すること。)										
国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4 (教授級以上1、大学院生3)		
1	ドイツ	2	2	0	0	0	4			
計		2	2	0	0	0	4			
第三国への渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)										
該当なし										
②海外→日本の渡航数(本事業経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)										
国名(派遣先) 第三国は、国名の後に(第三国)と記載すること。		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない者・ その他	合計	うち、31日以上 の渡航数(該当の場合のみ) 役職ごとの内訳も()書きで併記のこと。 記入例: 4 (教授級以上1、大学院生3)		
1	該当なし	0	0	0	0	0	0			
計		0	0	0	0	0	0			
第三国からの渡航がある場合は、各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)										
該当なし										
③日本以外→日本以外の渡航数(本事業経費による渡航) (①、②の合計数の半数以下とすること。適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)										
国名(派遣元)		国名(派遣先)		教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の 参加資格のない 者・その他	合計	うち31日以上 の渡航数(該当の場合のみ)役 職ごとの内訳も()書きで 併記のこと。 記入例: 4 (教授級以上1、大学院生3)
1	該当なし			0	0	0	0	0	0	
計				0	0	0	0	0	0	
各渡航について、手引3-4(1)①記載の要件を(B型の相手国の第三国の参加研究者の場合は手引2-6記載の要件も)満たす旨の事由説明 ※③の合計が①と②の合計の半数よりも大きくなる場合、手引2-7(3)もしくは(4)に該当するセミナー開催に伴う渡航である旨も記載すること。 (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)										
該当なし										
④海外→日本の渡航数(相手国側経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)										
国名(派遣元)				教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他		合計
1	該当なし			0	0	0	0	0		0
計				0	0	0	0	0		0
⑤日本→海外の渡航数(相手国側経費による渡航) (適宜、行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)										
国名(派遣先)				教授級以上	助教・ 准教授等	ポスドク等 若手研究者	大学院生	手引2-4記載の参加資格のない者・ その他		合計
1	該当なし			0	0	0	0	0		0
計				0	0	0	0	0		0

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	ハンガリー
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文: エトパッシュ・ローランド大学 英文: Eotvos Lorand University	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	Institute of Biology・Associate Professor・KARDOS, Jozsef
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	1	3	1	4	0	9	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	1	3	1	4	0	9	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名 (専門分野)		研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット		研究交流に不可欠な理由			
該当なし							

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をブルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考： 日本側研究交流経費		13,050
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1 単位に 相当する円貨額)	
National Res. Devel. and Innov. Office	Hungary-Japan TET grant	500	2020/8/25	HUF	0.35522円	
	合計	500				

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金 (基盤的経費を含む) をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	オーストラリア
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：ウーロンゴン大学 (※2022年11月～オーストラリア国立大学より変更) 英文：University of Wollongong	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	School of Chemistry and Molecular Biosciences, Senior Professor・WILSON, Mark (※オーストラリア大学・CARVER Johnから変更)
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：オーストラリア国立大学 英文：Australrian National University	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	3	0	1	0	0	4	
協力機関・協力研究者	3	1	0	0	0	4	
合計	6	1	1	0	0	8	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加減すること。)							
所属・職名 (専門分野)			研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)				
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考： 日本側研究交流経費		13,050
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1 単位に 相当する円貨額)	
Australian National University	Internal Funds to suport travel	500	2018/3/1	AUD	82.57円	
合計		500				

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。
※相手国側の学術機関独自の資金（基盤的経費を含む）をマッチングファンドとして扱うことはできません。

(備考) 令和4年11月に、拠点機関とコーディネーターを上記に変更した。それまでの拠点機関（オーストラリア国立大学）参加研究者は、協力機関、研究協力者として本事業に参加する。
新たなコーディネーターは蛋白質凝集のプロテオミクス研究の第一人者であり、11月にオーストラリアで・ウーロンゴンで開催する拠点セミナーの策定、資金の管理、交流の実施、実施報告に必要な連絡調整を行う。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	英国
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文: ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン 英文: University College London	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	Centre for Amyloidosis・Professor・BELLOTTI, Vittorio
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文: リーズ大学 英文: The University of Leeds	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	3	0	4	0	1	8	
協力機関・協力研究者	1	0	0	0	0	1	
合計	4	0	4	0	1	9	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加減すること。)							
所属・職名 (専門分野)		研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)					
University College London, Research assistant (Amyloidosis)							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由		
該当なし							

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をブルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考： 日本側研究交流経費		13,050
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1 単位に 相当する円貨額)	
UCL	Discretionary funds	500	2021/7/8	GBP	152.38円	
	合計	500				

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金 (基盤的経費を含む) をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	イタリア
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：ウディネ大学 英文：University of Udine	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	Department of Mathematics, Informatics and Physics・Associate Professor・FOGOLARI, Federico
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：ニューヨーク大学アブダビ 英文：New York University Abu Dhabi	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	0	1	1	0	0	2	
協力機関・協力研究者	2	1	2	0	0	5	
合計	2	2	3	0	0	7	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加減すること。)							
所属・職名 (専門分野)		研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット		研究交流に不可欠な理由			
該当なし							

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考： 日本側研究交流経費		13,050
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1 単位に 相当する円貨額)	
Italian Education Ministry	Biophysics Laboratory	500	2018/3/1	EUR	130.31円	
合計		500				

※日本側で独自に用意した資金（学長裁量経費や本事業以外の資金）を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金（基盤的経費を含む）をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	ドイツ
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：ミュンヘン工科大学 英文：Technical University of Munich	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	Department of Chemistry・Professor・BUCHNER, Johannes
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
和文：ウルム大学 英文：Ulm University	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	4	0	1	3	0	8	
協力機関・協力研究者	1	0	0	0	0	1	
合計	5	0	1	3	0	9	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加減すること。)							
所属・職名 (専門分野)		研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット				研究交流に不可欠な理由	
該当なし							

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考： 日本側研究交流経費		13,050
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1 単位に 相当する円貨額)	
German Research Foundation	Research Grants	1,500	2018/3/23	EUR	129.24円	
	合計	1,500				

※日本側で独自に用意した資金(学長裁量経費や本事業以外の資金)を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金(基盤的経費を含む)をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	デンマーク
②拠点機関名 (和文および英文)	
和文：オーフス大学 英文：Aarhus University	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	Interdisciplinary Nanoscience Center(iNANO)・Professor・OTZEN, Daniel Erik
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)	教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計	第三国所属の研究者 (内数)
拠点機関	2	0	1	1	0	4	
協力機関・協力研究者	0	0	0	0	0	0	
合計	2	0	1	1	0	4	
⑥「その他」内訳 (該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。)							
所属・職名 (専門分野)		研究交流での役割 (B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。)					
該当なし							
⑦「第三国所属の研究者」内訳 (B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。)(5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。)							
所属機関所在国・所属・職	専門分野	日本側拠点機関へのメリット		研究交流に不可欠な理由			
該当なし							

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をブルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみの。)	1	※参考： 日本側研究交流経費		13,050
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1 単位に 相当する円貨額)	
Lundbeck Foundation	Lundbeckfonden Thematic Grant - What Causes Brain Disease?	500	2018/3/1	DKK	17.50円	
	合計	500				

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金 (基盤的経費を含む) をマッチングファンドとして扱うことはできません。

5. 交流相手国

事業の型 A 型	
①相手国名 (和文)	ポーランド
②拠点機関名 (和文および英文)	
③コーディネーター所属部局名・職名・氏名 (英文)	Department of Chemistry・Professor・DZWOLAK, Wojciech
④協力機関名 (和文および英文) (1機関ごとに行を適宜加減し、該当ない場合は「該当なし」と記入すること。)	
該当なし	

⑤参加研究者数内訳(重複カウントしないこと)							第三国所属の研究者（内数）
教授級以上	助教・准教授等	ポスドク等若手研究者	大学院生	その他	合計		
拠点機関	1	0	0	5	0	6	
協力機関・協力研究者	0	0	2	0	0	2	
合計	1	0	2	5	0	8	
⑥「その他」内訳（該当ない場合は「該当なし」と記入すること。適宜、行を加除すること。）							
所属・職名（専門分野）			研究交流での役割（B型で、本事業費で旅費支給の場合のみ記入すること。）				
⑦「第三国所属の研究者」内訳（B型で本事業費で旅費支給の場合のみ。）（5名迄。適宜行を加除し、該当ない場合は「該当なし」と記入のこと。）							
所属機関所在国・所属・職		専門分野	日本側拠点機関へのメリット			研究交流に不可欠な理由	

⑧相手国のマッチングファンド(=相手国側拠点機関が実際に本研究課題に使用した研究交流経費) (マッチングファンドの種類ごとに一行にまとめ、負担額を記載。適宜、行を加除し、B型で該当ない場合は該当なしと記入すること。)		パターン1または2をプルダウンから選択ください。 (経費負担区分が該当する相手国のみ。)	1	※参考： 日本側研究交流経費		13,050
支援機関等名	ファンド・プログラム名	日本円換算額 (単位：千円)	換算レート日 (例:2021/4/12)	相手国 通貨名	換算レート (外貨1 単位に 相当する円貨額)	
University of Warsaw	Research Funding to support Biological and Chemical Research Center	500	2021/12/9	PLN	27.9359円	
合計		500				

※日本側で独自に用意した資金 (学長裁量経費や本事業以外の資金) を相手国側のマッチングファンドとして扱うことはできません。また、振興会と相手国の学術助成機関等との二国間交流事業等における相手国側資金を相手国のマッチングファンドとすることもできません(EPSRC-JSPS Core-to-Core Collaboration Advanced Materialsのように本事業のために相手国の学術助成機関が用意した相手国側資金は相手国側のマッチングファンドとして扱います)。

※相手国側の学術機関独自の資金 (基盤的経費を含む) をマッチングファンドとして扱うことはできません。